



SORAK Development Agency  
Registered NGO: No:8726

UEB Zone, Church Road -Mullago; P.o Box, 71883 Clock Tower -Kampala; Tel:+256 703515225  
Mubende Office: Lusallira T/C, 16km from Mubende Town along Mubende -Fort portal Road



NPO法人グローバルブリッジネットワーク  
Global Bridge Network

## 生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業(ウガンダ共和国)

### 「生理用布ナプキン作成と月経時の衛生管理ワークショップ(2017年4月)」

#### のモニタリングレポート

#### モニタリングの目的

2017年4月10~11日に行ったワークショップ「布ナプキン作成トレーニングと月経時の衛生管理」により、女子生徒の学校環境にどのような影響をもたらしたかをプロジェクトの対象校3校にて調査する。

#### モニタリング実施者

モニタリングは、プロジェクトを実施している現地 NGO・SORAK Development Agency の代表 Muhammad Kyeyune 及び、Nnakiruuta Hadijah、Muhumuza Adolf の計3名で実施。

#### モニタリング対象者

2017年4月10~11日のワークショップに参加した対象者：

生徒15名(各校5名ずつ)、保護者3組(各校1組ずつ)、ルワウナ小学校とプレシャス・チャイルド・ラーニングセンターから教頭2名、女性教師3名、男性教師2名。

#### トレーニング実施前の状況

- 月経に関連する逸話(生理中は〇〇してはいけない・・・)の影響で、月経中に男子と同席できない、塩や豆などを食べてはいけないと信じる女子生徒がいた。
- 男子生徒にとって、生理はからかいの対象であり、学校で急に生理がきてしまった女子生徒は、周囲から異常と見られていた。
- 女子にとって、生理は恥ずかしいことであり、保護者やベテラン(シニア)女性教師であっても月経について話すことが憚られる状況なので、女子は生理について話せない。
- 保護者が、自分の娘へ生理用ナプキンを提供していない。
- 生理用ナプキン不足や他の生徒たちに笑われるなどの理由で、生理中の女子生徒は学校を欠席せざるおえない環境。
- 学校において、生理に関する衛生管理を実施する予算を割り当てていない。

#### 「再利用可能な生理用布ナプキン作成トレーニング」実施後の状況

- 月経に関連する逸話や女子生徒の生理に関する認識が変化
- プロジェクトに参加した男子生徒は、月経が正常な生理現象であり、妊娠・出産適齢期の女性すべてが経験することだと認識した。また、男子生徒は、女子の生理に関して自身の果たすべき役割を認識した。例えば、インタビューを受けた男子生徒は、「急に生理が始

まった女子生徒にセーターかけてあげる」、また「生理の問題について他の生徒にも認識させる」というように、生理に関する自分の役割と責任を果たしていると語った。



トレーニングの後、生理の衛生管理について自由に嬉しそうに話す  
プレシヤス・チャイルド・ラーニングセンターのローズちゃん、

- 参加した女子は、生理に経に関して、両親や、教師、その他の人と怖がらずに自由に話せる環境になった。

「私は、以前は、生理がとても恥ずかしく、例え祖母であっても話をするできませんでした。」(ルワウナ小学校の女子生徒 Nagayi Rehema さん)

- 女子生徒の生理中の学校欠席率が減少。

「これまで生理中はトイレットペーパーを使っていたので、一日保つことができず、月に4日は学校を欠席していました。でも、布ナプキン作成トレーニングで2つナプキンを作り、トレーナーから教わったように適切な衛生管理（洗って使う）をしています。そこから私の人生は大きく変わりました。2つあれば、日中に1つ布ナプキンを使い、もう一つを家で使えば十分になりました。ありがとう！」(プレシヤス・チャイルド・ラーニングセンターの女子生徒 Shadia さん)

- 教師は、緊急時に学校の女子生徒に生理用ナプキンを提供する予算配分を増加。また、ルワウナ小学校とプレシヤス・チャイルド・ラーニングセンターでは、生理時にナプキンを取り替えたりできる（適切な衛生管理を実施する）プライベートスペースを作るなど男子・女子に配慮した環境にした。

- ▶ 保護者は、将来的な収入源としての生理用布ナプキンの作成に参加すること、また他者にトレーニングしながら広げていくことを約束。



オレンジのTシャツを着た Shadia ちゃんはその友達 Nalule adfter ちゃんに生理時の衛生管理について説明した

### 今後における提案

本事業の目的を達成するために、今回モニタリングを行ったメンバーによる提案は以下である。

- 学校や家庭にて女子の生理時における衛生管理を促進するには、特に保護者を対象としたミーティングなどを実施して保護者に理解・協力させるようにする
- 生理になる青年期の女子生徒の身近にいる男子生徒は、最も近い距離で関わることになるので、男子の理解・意識を高めることためにも、本事業に関わる男の子（男子生徒）を増やしていく。
- 生理時に適切な衛生管理ができるように予算配分（ナプキンのストックやプライベートスペースを設けるなど）を学校側で増やすべき。

### 結論と今後の方向性

生理時の衛生管理についてはそれぞれの立場での役割がある。特に男の子を参加させることは、例えば、布ナプキン作成トレーニングに参加した男子生徒が、生理時にどのように対処したらいいのかを他の青年期の女子に伝えることができた、など効果的な結果をもたらすことが分かった。今後は生理に関するトレーニングに参加させる男子生徒を増やしていくことが必要である。

# 男子生徒へのインタビュー調査

「布ナプキン作成トレーニングと月経時の衛生管理」に参加した男子生徒（それぞれの対象3校より1名づつ）を選抜して個別にインタビューを行った。

## <月経に関する知識>

**Q1. 生理用ナプキントレーニング前に月経について知っていましたか？選ばれたときにどのように感じましたか？**

Boy1：月経について何となく知っていたけれど、なぜ自分が選ばれたのだろうと自問自答した。

Boy2：選ばれて自分が特別な感じがして嬉しかった。

Boy3：無回答

**Q2.**

**1) 何についてのトレーニングと聞いて、何を期待した？**

Boy1：生理用ナプキンの作り方、青年期の女の子をどうやってサポートするか、また女の子が生理の時にどう感じるかを知ること。

Boy2：生理中に女の子がどうやって過ごすのか、また生理用ナプキンの作り方を知ること。

Boy3：生理用ナプキンの作り方について学ぶと聞いていた。

**2) 事前に聞いていた内容以外でどんなことを初めて知りましたか？**

BOY1:女子が生理中に使う布ナプキンを男子が作れるなんて思わなかったし、女子は自由に生理の問題について父親も含む両親に話をしているものだとは思っていなかった。今までは女子は自分の母やお姉さんだけに話すものと思っていた。

BOY2:月経周期について初めて知った。

BOY3:女性の月経について、初めて知った

## <トレーニング後の態度と認識>

**Q3.**

**1) Q1 でYES と答えた（月経について知っていた）ことについて、トレーニングに参加する前に生理についてどんな認識がありましたか？**

Boy1：トレーニング前は、女子が生理になるのは非日常のことで病気（医療が必要）だと思った。すごく痛くて10日ほど痛みが続くと女の子が言っていたし、女子は胸が出てくると生理になると思っていた。

Boy2：トレーニング前は、月経は大人の女性にだけ起こる異常なことだと思っていた。

Boy3：無回答

**2) その認識は変わりましたか？**

Boy1： はい、10歳以上になると女子は生理が始まるので、胸が出てくることだけが基準じゃないこと。

Boy2： 月経について詳しく知ったので、自分の心構えも変わった。

Boy3： 無回答

**Q4. トレーニングの後、女子をサポートするのに学校や地域で自分はどんな役割や責任を果たせるとおもいますか？**

Boy1： 生理についてもっと理解してもらおうことと、（材料があったら）生理用ナプキンの作り方を伝えること。

Boy2： もし女子が学校や地域で生理になって漏れているのを見つけたら、自分のセーターで隠してあげる。また、他の同級生の男子に生理についての理解を促していく。

Boy3： 生理用ナプキンを作り、他の人たちに生理について伝えていく。

**Q5. もし次回トレーニングをする機会があれば、他の友達にも受講をお勧めできますか？**

全員「はい」

**Q6. トレーニングを受講して何かコメントはありますか？**

Boy1： 一人の男子としてトレーニングに受講させてもらったのはとても感謝していますが、今回は自分の学校から参加したのはたった3名の男子だったので、他の男子たちも受講したほうが良いと思います。

Boy2： 特に何も。

Boy3： トレーニングを受ける前は何も知らなかったし、生理についてとても未熟だった。今は他の同級生に生理の問題について伝えることができる。

最後に、インタビューをした男子生徒たちから、彼らの認識がトレーニングを受けた後に変わったことが伺えた。

2017年4月24日